

## メタデータエディタでのレコードの編集

前回のセッションでは **Alma** の検索結果からメタデータエディタにレコードをプッシュする方法と編集のためにレコードを開く方法をご紹介しました

このセッションでは、メタデータエディタでレコードを編集する方法を学習します

一度編集用にレコードを公開すると編集が終わってレコードを公開するまで、他のユーザーが使用できないようにロックされます

これについては後で説明します

上部のリボンには、レコードのタイトルが表示されます

ゾーンアイコンは、このレコードがネットワークや **Alma** コミュニティではなく私たちの機関に属することを示しています

機関は目録者のスキルに応じて、インベントリーレベルを定義することができます

情報アイコンは、レコードがいつ作成/変更されたかを示します

フィールドを編集するには、フィールドをクリックします

フィールド番号、インジケーター、フィールド値を編集できます

さまざまなサブフィールドを含みます

上矢印と下矢印を使用してフィールド間を移動できます

省略記号のアイコンを使うことで、フィールド情報を表示しこの場合、米国議会図書館から正しい形式でデータを入力することができます

**F8** を押すと新しいフィールドを追加でき **F9** を押すと新しいサブフィールドを作成できます

[アクションの編集]メニューでは、すべての編集アクションとキーボードショートカットが表示されます

**LDR** や **008** などの固定長フィールドの場合 [フォームエディタを開く]を選択し各インデックスで利用可能な値を説明するユーザーフレンドリーなインターフェースでフィールドを編集することができます

フィールドを削除するには、フィールドを選択し、[アクションの編集]>[フィールドの削除]をクリックします

[レコードの拡張]オプションを使用すると、ウィジェットで定義されている通りに、正規化ルールを実行してレコードを更新できます

また、独自の正規化ルールも作成できます

このルールは、たとえば **Project Gutenberg Free** 電子書籍に 520 フィールドを追加します

ルールを実行するとフィールドが追加されたことがわかります

[アクションの編集]メニューに戻り [テンプレートから展開]では選択した[レコードテンプレート]で定義されたフィールドをレコードに追加します

テンプレートについては、専用のセッションで説明します

機関が Alma ネットワークの一部である場合、[ローカル拡張機能を追加]を使用すると ネットワークゾーンで管理されている書誌レコードに独自のローカルノートフィールドを追加することができます

[ローカル拡張機能]は、機関内の検索にのみ表示されます

[方向文字の挿入]オプションは、テキストの方向が異なる多言語で目録を作成する際に テキストの方向を変更するために使用されます

たとえば、ヘブライ語のテキストを英語のテキストに埋め込む場合です

典拠レコードを使用して、選択したフィールドにデータを入力できます

650 フィールドなど、一部のフィールドでは使用される典拠シソーラスは、2 番目のインジケータによって決定されます

典拠を使用してフィールドに入力するには フィールドに最低 3 文字を入力して **F3** を押します

提案された典拠レコードは、関連する語彙から開きます

この例では、LCNAMES です

他の典拠レコードを使用したり、独自の典拠レコードを作成したりすることもできます

典拠レコードを表示して気に入ったものがあれば それを選択してフィールドに入力することができます

双眼鏡アイコンは、このフィールドが典拠レコードにリンクされていることを示します

双眼鏡をクリックすると、典拠レコードが表示されます

レコードに変更を加えたら、[保存]をクリックすることを忘れないでください

レコードを下書きとして保存することもできます

変更をまだディスカバリーに反映させたくない場合に有効です

上のリボンは、再度保存するまで、このレコードが下書きであることを示しています

保存すると Alma はレコードに対して MMS ID (Alma のレコードの ID) を 001 フィールドに追加などをして、正規化を行います

機関は、保存時に独自のカスタム正規化処理を追加できます

また、Alma は保存時にレコードの検証を行い

警告やエラーがあれば下部パネルに表示します

パネルを展開して警告を表示し 個々の警告をクリックすると そのフィールドにジャンプして警告を修正できました

レコードをリリースするまで、他のユーザーが編集できないようにレコードはロックされています

たとえ、リリースするのを忘れていても、設定に基づいていずれはリリースされます

[レコードの保存とリリース]をクリックすると、レコードをリリースできます

[レコードアクション]>[レコードのリリース]からも実行できます

これによりレコードが閉じられ、ナビゲーションバーから削除されロックが解除されて他のユーザーが編集できるようになります

リリースレコードアイコンを介することで、ナビゲーションバーに現在表示されているすべてのレコードをリリースすることもできます

新規メニューから新しいレコードを作成できます

テンプレートを選択し以前ご紹介したように、レコードの編集を開始します

次のセッションではメタデータエディターでレコードに対して実行できる追加のアクションをご紹介します